

福島県議会議員 長尾トモ子
企画環境副委員長

県政報告 ともこ だより

皆様のご意見、ご要望を
お気軽にお寄せ下さい

〒963-8041 福島県郡山市富田町前川原22 TEL:024-951-0341 FAX:024-951-0361
メールアドレス tomokon@circus.ocn.ne.jp (ホームページもあります)

行動する・走る 「うつくしま汗かき人」 長尾トモ子の日記から

4月から
毎週月・金
街頭演説をして
おります。

インターネットで
「長尾トモ子」と検索すれば
ブログ(日記)がご覧になれ
ます。毎日更新中!



6/7 大滝根山空軍基地



6/19 街頭演説(富田)



6/22 裏磐梯国立公園60周年



6/26 猪苗代湖そうじ



7/5 スポーツ民謡福島大会



7/5 逢瀬川一斉そうじ



7/7 駅前ゲリラ豪雨



7/23 高速増殖炉「もんじゅ」視察(福島県)



8/1 猪苗代湖まつり



8/29 社会福祉大会(喜多方)



8/29 びっくり市(長者通り商店街)



8/30 靖国神社(東京)



9/10 自民党要望聴取会



9/18 内環状線縄文遺跡出土



9/19 柳橋歌舞伎



9/20 うつくしま YOSAKOI



10/1 企画環境委員会



10/10 富田芸能発表会

ごあいさつ



心と心をつなぎ元気な社会づくりを!!

今年の夏は異常気象のため、猛暑日、集中豪雨と生活に支障をきたす事も多くありました。

政治においても混迷をきたしておりますが、今こそ国民一人ひとりが日本人としての誇りと責任を持ち、国民本位の社会づくりをしていく時です。

私も皆様と共に未来の子ども達のためにも、心と心をつなぎ元気な社会づくりのため頑張つて参ります。

私の政策

- 1 教育、子育て支援を充実させ次世代の人づくり
- 2 農業、商業、産業を通し活力ある県土づくり
- 3 歴史、文化、自然を守り誇りあるふるさとづくり
- 4 人とのきずなを大切にしたい安心安全な地域づくり

● 学歴 ●

郡山市立富田小学校、郡山第六中学校、県立安積女子高校(現安積黎明高校)、郡山女子大短期大学部保育科卒業

● 活動 ●

・チャイルドハウスうねめ保育園園長
・逢瀬川ふれあい通り実行委員長
・YOSAKOIまつりを広める会顧問
・国際郡山ソングクラブ会員
・郡山東ライオンズクラブ会員
・NPO郡山私立保育園連絡協議会理事
・県議会議員(平成17年4月10日～)来年3期目を目指します

9月議会 一般質問の内容と当局の答弁についてお知らせ致します。



県議会登壇
(9月27日)

秋祭りの御輿

地域コミュニティ再生について

- 問** 地域のきずなを強め、支え合う地域コミュニティ再生についてどのように進めていくのか。
- 答** 100年後もいきいきふくしまの県民運動のもと、地域住民が主体となる活動を、市町村との連携を図りながら、支えあうきずなづくりを進めて行く。(知事)
- 問** 地域のきずなを深めるために、町内会加入を市町村に働き掛けたり支援を考えるべき。
- 答** 町内会は行政情報の周知や地域課題の取りまとめ地域づくりの担い手として重要。伝統文化の継承、地域活性化を目指す活動などの支援に努めている。(総務部長)
- 問** 全国自治会連合会全国大会福島大会開催に向けて県はどのようにかわるのか。
- 答** 全国各地の地方自治や地域づくりに携わる人の研修や情報交換をするため開催しているが、具体的内容を踏まえ、支援を検討していく。(総務部長)



八重洲観光交流会館

福島の魅力発信について

- 問** 歴史、文化、自然などを生かした観光の魅力をどのように発信し誘客につなげているのか。
- 答** 滝桜や花見山、会津の仏教文化をはじめとする特色ある歴史や文化、豊かな食、温泉などを、観光ホームページや情報誌、テレビの旅番組、さらにはモニターツアーなどによりタイムリーな発信に努めている。(観光交流局長)
- 問** 県産農産物及び加工食品の魅力をどのように発信し効果を上げているのか。
- 答** 県ブランド認証産品やふくしまの恵みイレブンを新聞、雑誌、インターネットで全国で発信すると共に、首都圏の百貨店、飲食店にプロモーション展開。アンテナショップや大型食品展示会などで認知度向上と販売の促進につとめている。(観光交流局長)
- 問** 伝統的工芸品の魅力をどのように発信し効果を上げているのか。
- 答** 会津塗り、奥会津編み組み細工、大堀相馬焼きなど40点を指定し、インターネット上にギャラリー開設やイベントにPRブースを作るなどして来た。漆器や陶器に対する海外の関心が高まるなど効果が出ている。(観光交流局長)
- 問** 医療福祉機器の強みや魅力をどのように発信し効果を上げているのか。
- 答** 産学官による研究や薬事法に関する支援、メディカルクリエーション開催や国内外の医療機器展示会への出展、ホームページなどで発信している。こうした取り組みに多くのものづくり企業が参入し、国内外での取引が拡大している。(商工労働部長)
- 問** 東京にある八重洲観光交流館の取組みと成果について
- 答** 昨年7月オープン以来19万人が来館。本県の総合的情報発信拠点として定着している。福の日やJAの日を設け各団体の連携を図り、“ほっとする福島”の魅力を発信し交流人口拡大を図っている。(観光交流局長)
- 問** 東京の情報を各市町村に発信し、県全体で福島県をアピールしていくべき。
- 答** 東京事務所通信を市町村に提供するなど連携を強化し、首都圏が求める本県の情報を、広報媒体等を活用し発信していく。(直轄理事)
- 問** 福島の魅力や強みをアピールするため、外部の人材も活用した戦略的情報発信室を設けるべき。
- 答** 今年度から部局間連携による広報戦略会議を立ち上げ“ほっとするふくしま”を統一コンセプトにして全庁あげ福島の宝を発信していく。(直轄理事)

子育て支援・教育について

- 問** 未受診者に乳児虐待が多いと言われている中、乳児全戸訪問や検診を受けない家庭の現状と未受診者対策について
- 答** 全戸訪問を受けていない人3割、3才児、1.6才児検診を受けていない人2割となっている。戸別訪問などによる受診勧奨や母子保健担当者等による検討会の実施など受診率向上に向け、市町村の取組みを支援する。(保健福祉部長)
- 問** 児童虐待を判定するための児童福祉司の現状と今後の対応について
- 答** 4ヶ所の児童相談所に34人配置。特に虐待相談は年間200件以上あるので今後も任用資格を有する職員や、17年度から採用開始した福祉職に対してもより専門性の向上を図る。(保健福祉部長)
- 問** 子ども手当での未申請者の現状と子ども手当てに対する県民の反応について
- 答** 9月15日現在、市町村の回答では20%で1,000人の未申請。手当てに対しては所得制限がなくて良かった。手当の額が増えて助かった。手当以外に保育所施設の施設整備や保育園の負担軽減を図ってほしい。恒常的な財源の確保が必要などの声が寄せられた。(保健福祉部長)
- 問** 児童自立支援施設は全国に57ヶ所あり、42ヶ所に学校教育が導入されている。本県の福島学園はまだ導入されていないがどのように考えているのか。
- 答** 県教育委員会と連携し、地元市と協議してきたが、学園内の分校に係る経費負担などの課題があり導入されていない。今後も努力していく。(保健福祉部長)
- 問** 国民読書年にあたり多くの方が読書に親しめる環境づくりにどのように取り組んでいるのか。
- 答** 移動図書館あづま号の活用や今年6月から宅配による貸出し。点字図書館においては4月から視覚に障がいのある人にインターネットで電子録音図書を自宅で利用できる体制を整えるなど、多くの方が読書に親しめる環境づくりをしている。(教育長)
- 問** 公立小、中学校の図書館を地域開放すべき。
- 答** 一部の学校においては、保護者や地域の方々を対象に貸し出しなど行っている。開かれた学校づくりや学校図書館の活用策の1つとしてこれを市町村教育委員会や各学校に対し具体的事例を広く情報提供していく。(教育長)

ブックフェア



自然体験

農林水産・警察

- 問** 有害鳥獣カワウによる漁業被害対策について
- 答** 県内水面漁業協同組合等が行う捕獲、巢落、河川湖沼での追い払い、テグス張りによる飛来防止、買い上げによる狩猟捕獲の奨励などの取組みを支援している。(農林水産部長)
- 問** 異常気象に対処する農業技術情報システムの整備をすべき
- 答** 今までは報道関係や県ホームページ、電子メールによる農業団体への通知をしていた。今後はこれに加え11月を目途に「福島モバイル県庁」やメールマガジンの活用によって農業者自らが携帯電話等を利用して、情報をより容易に入手できる仕組みを進めていく。(農林水産部長)
- 問** 猪苗代湖の水難事故防止対策と警備艇の更新について問う
- 答** 猪苗代湖は本年10件の事故が発生し、県警として湖上警らなどを行っている。又、他の関係団体と連携強化し危険操縦の防止や運転マナー向上に努めている。警備艇に関して国に更新を働き掛けていく。(県警本部長)



猪苗代湖